



ふかがわりんゆう  
深川倫雄(1924~2012)

「こうしたら人が悪う言うまいか、こうしたら  
良く思われまいか」というのが人と人との交際。  
その交際はやめられはしませんが、それを軽く  
して、「こうしたら仏さまがお喜びなさるか、  
こうしたら仏さまがお悲しみか」というやり方が  
仏法、お念仏であります。

人にほめられたとしても、それはほめた人  
の功德であって、ほめられた人の功德じゃ  
ありませんからね。反対に人の悪口を言う人  
がおったら、その人の心に傷がついておる  
のです。人をほめる人がおったら、ほめる人  
の心が豊かになってゆく、人を悪く言えば言う  
人の心が貧しくなってゆくんだ。

仏法に志すということは、なるべく人と人との  
交際に気を配る心を軽くして、私と仏さまとの  
交際を重くするというであります。

深川倫雄『仏力を談ず』(永田文昌堂・刊)より

ほうおんこう  
報恩講とは

親鸞聖人は、そのご生涯をとおして阿弥陀さまの  
「われにまかせよ そのまま救う」とのお救いを真実  
のみ教えとしてお示しくされ、私たちがそのみ教えに  
出あわせていただきました。多くの方がこの真実のみ  
教えを喜び、700年を超える歴史の中で、先人たちが  
親鸞聖人ご命日の法要を「報恩講」として脈々と  
受けついで、今日まで大切にお勤めしてきました。

真実のみ教えをお示しくされた親鸞聖人に  
感謝し、阿弥陀さまのお救いをあらためて心に  
深く味わわせていただく、一年でもっとも大切な  
ご法要である報恩講にお参りいたしましょう。

【西本願寺グランドツーリングのご案内】

※全国の別院・教堂等の報恩講日程一覧や、  
リーフレットのバックナンバー等を  
ダウンロードできます



■報恩講の案内

の報恩講は

---

---

---

皆さまそろってお参りください



何の気兼ねもなくみんなと会い、みんなと語り、当たり前だと思っていた日常が変わりゆく中で、これまでの毎日がいかにありがたいものであったのかを感じられた方も多かったのではないのでしょうか。

新しい日常の中で、私たちは、人との「つながり」や「ふれあい」の中で生きていくことに気づかされました。

寂しさや孤独を感じる今、阿弥陀さまは「決してひとりじゃないよ、いつもそばにいるよ」と、常に私たちに寄り添い、はたらきかけてくださっています。

その阿弥陀さまの願いを、親鸞聖人は私たちにあきらかにしていただきました。

報恩講は、親鸞聖人のご苦勞を偲びつつ、私たち一人ひとりのご安心(信心)について考えさせていただくことのできる大切な場であります。

そして、阿弥陀さま、親鸞聖人、そして有縁の皆さまや家族との「つながり」「ふれあい」のご縁であります。

——報恩講のご縁は、きっと新しい日常を生きる私の力になるでしょう。

## 《浄土真宗のみ教え》

南無阿弥陀仏

「われにまかせよ そのまま救う」の 弥陀のよび声

私の煩惱と仏のさとりは 本来一つゆえ

「そのまま救う」が 弥陀のよび声

ありがとう といただいて

この愚身をまかせ このままで

救い取られる 自然の浄土

仏恩報謝の お念仏

み教えを依りどころに生きる者 となり

少しずつ 執われの心を 離れます

生かされていることに 感謝して

むさぼり いかりに 流されず

穏やかな顔と 優しい言葉

喜びも 悲しみも 分かち合い

日々に 精一杯 つとめます

(ご門主さまのご親教『浄土真宗のみ教え』より)



いつでも  
**歎異抄**  
ひとへに無常  
読む  
感じる  
思い浮かべる

思い切った現代語訳とユニークなイラストでつづる、まったく新しい『歎異抄』入門

『いつでも歎異抄』 井上見淳(意訳) 一ノ瀬かおる(イラスト)  
井上見淳、浄土真宗本願寺派総合研究所(編集)

このほかにも、本願寺出版社では、浄土真宗や親鸞聖人に関するたくさんの方の書籍を用意しております。報恩講の機縁に、ぜひお読みください。

お問い合わせは、本願寺出版社まで

0120-464-583  
FAX 075-341-7753